書　道

「甘州即事」

岡林　御舟（いの町）

研究し考え続ける

「一つのところにとどまっていては発展しません。常に何をどうするか考え研究することが大切だと思ってやってきました」

書歴は44年だが、2年前に大病を患い手術をした。以前のような気力を取り戻すために練習を重ねていたところに新型コロナウイルスが発生。自身の年齢もあり、これが最後かもという覚悟があったという。

審査員は「熟練でない力が接近している。他人と違う作品作りをしなければダメだと考えて、今回は4行の作品に赤い紙を使って挑戦しました」

題材は中国の漢詩から選んだ。字の大小、強弱、濃淡、行間の文字の響き合い。さらに紙の赤色に負けず、文字を引き立てる墨の濃さを考えながら制作していった。

「多字数の世界は実いとこんな作品は書けない」と評した。

妻の起仙（本名・冨起子）さんも御舟さんと一緒に書を始め、これまで特選2回。今回は褒状だった。

「特選は妻が周りのことをして私を助けてくれたおかげで取れたようなものです」と笑顔を見せた。

（池添　正）

おかばやし・ぎょしゅう　本名・由典。1939年高知市生まれ。県書芸院会長。特選3回目で無鑑査。